蔵と書

石坂　優

ISHISAKA　YU

1993年　大阪府出身
2020年　出雲崎町の地域おこし協力隊として活動を始める

妻入りの家が連なる美しい風景が今も残る出雲崎町。天領の里にほど近い海沿いの町家の蔵で月に数回オープンする、蔵を使った本のある空間「蔵と書」。

主催するのは、昨年7月から出雲崎町の地域おこし協力隊として活動する、石坂優さん。石坂さんは大阪生まれの名古屋育ち、書店員を経て東京でブックディレクターとして働いていた経験を持つ。現在は、前職の経験を生かして子育て支援施設にセレクトした本を並べるコーナーを作ったり、図書館の本棚を季節ごとに入れ替える等、出雲崎町で本と人、町と人をつなぐ様々な役割を果たしている。偶然手にした1冊の本から今まで気付かなかったことに気が付いたり、新しいアイディアが生まれたり、時には人生が変わることも。「本は新しい世界への扉であり、いつでもそばにいてくれる友であり、おもしろい人間への近道だと思う」という石坂さん。実は出雲崎町に来たことも、地域おこし協力隊の仕事に就いたこともまったくの偶然。都会でしか暮らしたことのない石坂さんにとっては一軒家での一人暮らしも車の運転も、雪のある生活も初めて。全てがカルチャーショックで大変なことの連続だった。それでも「本のある空間を作りたい」という目標を持ち続け、活動するうちに少しずつ地域にも慣れ、次第に町の人が声を掛けてくれるようになった。活動の拠点が決まり“蔵と書”と名前を付けてSNSなどで発信を始めると、さらにいろんな人たちが広く興味を持ってくれるようになったという。

蔵の片付けや掃除をイベントに仕立て、ボランティアを募ると、町内外から10代～30代の人たち十数人が集まった。新潟とはまったく縁のない石坂さんの元に、知り合って間もない友人や他地域の地域おこし協力隊の人たち、町家や蔵に興味のある人たちが集まり、イベントを開催できたことは自信になった。

また、活動を通じて知り合った人たちからの寄付で本が集まり仕分・選書して、手作りした棚に並べ、売れた本を元手に本を仕入れるなどして2カ月後“蔵と書”をオープンした。

ここでは誰もが気軽に立ち寄れて本との出合いを楽しめる場所。蔵のメインスペースには「どこか何かが出雲崎や新潟とつながる」海の本、夕陽の本、酒の本、植物の図鑑などが並び、蔵の中だけでなく海辺で、町内の休憩所の畳で、好きな場所で気が済むまで本を読むことができる。

町の人からは、この前選んでもらった本すごく良かったよ、石坂さんのおかげで本を読む機会が増えた、などと喜ばれることも多くなった。本屋のない町で人と本をつなぐことができていたり、出雲崎を訪れる人が増えるきっかけになれていることが嬉しいとほほ笑み、石坂さんは前を向いた。

KURA_TOSHO

蔵と書　TEL 0258−78−2290
（出雲崎町役場・総務課）

5月の開催日　12（水）・30（日）　10:30～16:00　15（土）　14:30～19:00